

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4076200403
法人名	地域福祉研究所有限会社
事業所名	グループホームえだくに
所在地 (電話番号)	福岡県飯塚市枝国439番地 (電 話) 0948-22-5900

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4ー6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成19年8月24日	評価確定日	10月4日

【情報提供票より】(平成19年8月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日				
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人	
職員数	14 人	常勤	13人,	非常勤	1人, 常勤換算 7.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円		その他の経費(月額)	(水道光熱費) 15,000円
敷 金	有(150,000円)＊減価償却としての規程を定めている			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要(8月5日現在)

利用者人数		18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1		3	名	要介護2	3	名
要介護3		5	名	要介護4	7	名
要介護5			名	要支援2		名
年齢	平均	82 歳	最低	68 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大庭医院／児嶋病院／ふじい歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

飯塚市の国道200号線から少し入った、自然豊かな田園風景の中に「グループホームえだくに」が立地している。近くには、大型のショッピングセンターもあり、商店もあり、利便性が高く、住みやすい環境を有している。グループホームは、掃除が行き届き、清潔感に溢れている。医療機関との連携もよく、昼夜逆転防止ために、日中の活動意欲を高めるなど、積極的に支援しており、毎日の朝夕の散歩は、日課となっている。現在、入居者の方の重度化に伴い、ケアの質の向上を高めるために努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の調査では、人権教育や医療機関との連携など、課題が指摘されていたが、管理者が主体的に取り組み、改善を進めている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前回の課題である人権教育や医療機関との連携などは、管理者が主体的に改善に向けて取り組んでいる。自己評価も管理者が中心となり主体的に取りまされた。今後は、職員の気づきや日々のケアの振り返りも含めてミーティングなどを行い、自己評価に取り組んでほしい。
	重点項目②	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 定期的に家族や自治区会の代表・行政の担当係長などが出席し、運営推進会議を開催している。グループホームの状況や行事報告などを行っている。今後は、この外部評価の結果を報告され、検討するなど、外に向けて地域における「認知症のリーダー」として認知症の理解・啓発に努められると、更に信頼されるグループホームとしての位置づけが確立されると思われる。
	重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 相談窓口を掲示し、契約書にも明記され、玄関には、意見箱を設置している。家族の訪問時には、意見や苦情などを聞くように努めているが、更に家族の意見などを吸い上げ、運営に反映されることが望まれる。
重点項目④		日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、組長の役を引き受けるなど、町内会との交流や活動への支援には努力している。町内会の草取り・リサイクル活動・旅行にも参加し、グループホームが主催する夏祭りに地域の方々も参加されるなど、交流を積極的に行っている。更に小学校や保育園など、交流を深められ、子ども達が遊びに来るような関係づくりが出来れば、入居者の楽しみも高まるのではないかと考えられる。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心・安全な生活」「元気で楽しい生活」「家族と同様」をモットーに毎日のケアを行っている。地域密着型サービスとして、地域との交流など積極的に行っているが、理念の中にそれらを示す文書の検討が求められる。	○	平成18年の法改正により、グループホームは地域密着型サービスの役割を目指した理念の内容が求められ、これまでの理念に加えて「地域住民との交流の下で」などの理念の文書の検討が必要である。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、職員が日常の関わりの中で、理念に基づいたケアを実践できるように、毎日朝礼で確認すると共に、理念を掲示するなど、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、組長を引き受けるなど町内会との交流や支援は努力している。町内会の草取り・リサイクル活動・旅行にも参加し、グループホームが主催する夏祭りに地域の方々も参加されるなど、交流を積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の課題である人権教育や医療機関との連携などは、管理者が主体的に改善に向けて取り組んでいる。自己評価も管理者が中心となり、主体的に取り組まれた。今後は、職員の気づきや日々のケアの振り返りも含めて、ミーティングなどを行い、自己評価に取り組んでほしい。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、グループホームの状況や行事報告などを行っている。	○	今後は、この外部評価の結果を報告され、検討するなど、外に向けて地域における「認知症介護のリーダー」として認知症の理解・啓発に努められると、更に信頼されるグループホームとしての位置づけが確立されると思われる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政からの依頼による見学受け入れ、飯塚市介護相談員の制度などを活用し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	地域福祉権利擁護事業などの研修に参加している。また、成年後見制度については、裁判所に出向き、必要な入居者には、活用できるように支援している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「えだくに通信」を月1回発行し、家族への連絡を行い、つながりを高めている。個別には、「行事報告書」を作成し、写真で入居者の楽しそうな様子など状態を伝えている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口を掲示し、契約書にも明記され、玄関には意見箱を設置している。家族の訪問時には、意見や苦情などを聞くように努めている。	○	意見箱を設置するなど、家族などの意見・要望を寄せていただける環境づくりに取り組んでいるが、意見・要望を吸い上げ、運営に反映できるよう、一層の配慮が望まれる。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員のなじみの関係を大切にしたケアを実践しており、異動や離職の際には、事前にローテーションに配慮し、入居者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	採用時には、年齢や性別を理由に採用対象から排除することはない。採用に当たっては、①健康、②やる気と責任感を採用基準としている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動	研修・講習会に積極的に参加し、ミーティングの際にも、人権教育・啓発をテーマに話をするなど取り組んでいる。研修・講習会に参加した職員より、伝達講習を行っている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	○職員を育てる取り組み	年間の研修計画を立て、職員の介護技術の向上のため、デモ研修を行っている。また、介護福祉士や准看護師、介護支援専門員の資格取得に関して支援を行っている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	○同業者との交流を通じた向上	他の事業所の見学や介護状況の意見交換によるアドバイスなど、サービスの質を向上させるための交流を行っている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人・家族と面談し、見学を実施している。入居に当たっては納得していただけるまで、話し合いを行い、個人をよりよく理解し把握する様に心がけている。その際、家族より、本人のなじみの暮らしの状況をお聞きし、安心して入居していただける様に個別のケア目標を立てケアを行うなど話をしている。		
W					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の支援体制ができており、入居者が食器洗いなど生き生きとされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握	入居者の健康管理はしっかりと行われている。日々のかかわりの中で、言葉や表情などから真意を推し測ったり、日々の行動や表情から汲み取る努力が求められる。日々の暮らしの中で、入居者のつぶやきの声を「気づきノート」にまとめていくなど、思いや意向の把握に更なる工夫が求められる。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画	本人の達成目標が立てられ、毎日のケアに当たっている。健康管理面の充実した取り組みと同様に、介護計画に本人の楽しみを支援する取り組みを更に充実されることが求められる。また、主治医などとの話し合いの記録を充実されることが求められる。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	○現状に即した介護計画の見直し	医療との連携に重点をおき、介護計画期間及び状態変化に応じて見直しを行っているが、医療情報や本人・家族の意向など、さらに反映した介護計画の見直しが求められる。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援	職員が入居者の意向にそって、墓参りや篠栗のお参りなど外出支援を行っている。また、本人や家族の要望があれば、その内容に対応している。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援	定期的2週間に1度、主治医に往診していただいている。また、歯科医など、他の医師の受診や指導を受けられる体制を整えている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化に向けては対応指針を定め、家族・医師・看護師を交え、話し合いを行い、終末期への体制を整えるようにしている。終末期に伴い看取りについて、関係者で話し合い、事前確認を行うなど対応できるように支援している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような日々の対応を徹底している。入浴時は、入居者の安全確保に努め2人体制で行っている。やむを得ない場合は、本人の許可を得て男性職員が対応する必要があるが、家族の合意を再度、確認されることが望まれる。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	○日々のその人らしい暮らし	大型のショッピングセンターが近接しており、歩いて行けるため、個別に買い物に行ったり、朝・夕の散歩など柔軟に取り組んでいる。今後は、入居者の重度化に伴い、一人ひとりのペースを大切にされ、無理がない様に支援されることを期待したい。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援	食器洗いの役割を持つ入居者は、生き生きとされていた。食事は入居者の希望(好きな物)を聞き、献立に取り入れている。食事を楽しむ雰囲気づくりとして、BGMを流すなど工夫をされてはいるだろうか。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	○入浴を楽しむことができる支援	入浴は、希望に合わせて毎日でも入浴できる支援を行っているが、時間に制約があるため、いつでもとは限らない状況がある。入居者の希望に応じた入浴支援の工夫が求められる。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援	毎月1回、花見や祭りなど楽しんでいただける行事や計画がある。日々の暮らしの中では、食器洗いや洗濯物干しや洗濯物たたみなど、その人に合わせて役割を持っていただくように支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	○日常的な外出支援	家族の方に協力をお願いし、一緒に外出したり、外食を楽しんだりしていただいている。外出の機会が少ない入居者には、職員と一緒に外出したり、食材の買い物や散歩・ドライブの外出を楽しんでいただけるように支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践	日中は、外出しそうな気配や行動を察知し、声かけをしたり、一緒に散歩したり、買い物に出掛けたりと入居者の外出意向にそって目配り・気配りを行い、鍵をかけないケアを実践している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	○災害対策	定期的な年2回、防災訓練や避難訓練を実施し、地域の方々や消防団の方々へ日頃から協力をお願いしている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援	1日1,400～1,500カロリーの栄養摂取量で献立が立てられている。水分摂取量については、必要に応じて記録を行い、脱水や心不全などに注意をし介護を行っている。毎日の散歩など日中の活動に力を入れており、運動量を考慮した献立の作成が求められる。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり	グループホーム全体が、きれいに掃除され、きちんと整理され、安全面に配慮した環境づくりを行っている。また、壁飾りなど、柔らかい雰囲気づくりの工夫が見られたが、花や緑など、うるおいのある雰囲気づくりなどの工夫を期待したい。		
		共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮	居室は、きちんと整理され清潔感があり、使い慣れたなじみの物が置かれている。居室のドアには、似顔絵などが掛けられ、入居者が自分の部屋として意識できるように工夫している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			